

新国立劇場 2021/2022 シーズンオペラ

R. ワーグナー

さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer

2022年1月26日(水)~2月6日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス 2021年11月27日(土)前売開始



2015年公演より

ワーグナー楽劇の原点！呪われた船長を救う永遠の愛

永遠に暗黒の海をさまよう呪われたオランダ人船長を乙女ゼンタの愛と自己犠牲が救う物語『さまよえるオランダ人』。ワーグナーが作風を確立し、のちの名作群への幕開けとなった傑作で、「愛による救済」はワーグナー生涯のテーマとなりました。有名な序曲、オランダ人のモノローグ、ゼンタのバラードなど聴きどころも満載。音楽とドラマが密接に結びついて一気に展開するため、ワーグナー入門にもうってつけです。

何といても話題は名指揮者ジェームズ・コンロンの新国立劇場初登場。オランダ人には世界最高峰のワーグナー歌手エギルス・シリンス、乙女ゼンタにワーグナー作品で活躍するドイツのソプラノ、マルティーナ・ヴェルシェンバッハ、エリックにチェコのテノール、ラディスラフ・エルグルが登場し、日本を代表する歌手達との鉄壁の布陣で、ワーグナーの幻想と愛の世界に観客を引き込みます。

- * 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。
- * 招聘キャスト、指揮者につきましては、出入国制限の状況により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

< 資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ >

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel: 03-5352-5733 / Fax: 03-5352-5709 / E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

ワーグナー楽劇の原点！呪われた船長を救う永遠の愛

「オランダ人船長が神を罵った罪で永遠に海をさまよいつける」という幽霊船伝説をもとに書かれたワーグナー28歳のオペラ。永遠に暗黒の海をさまようよう呪われたオランダ人船長を乙女ゼンタの愛と自己犠牲が救う物語で、この「愛による救済」はワーグナー生涯のテーマとなりました。ワーグナーが作風を確立し、のちの名作群への幕開けとなった傑作で、大オーケストラによる有名な序曲、オランダ人のモノローグ、ゼンタのバラードなど聴きどころも満載。音楽とドラマが密接に結びつき、幽霊船と若い恋人たちのドラマが一気に展開するため、ワーグナー入門にもお勧めです。

マティアス・フォン・シュテークマン演出は明快で分かりやすいと定評があり、幽霊船の出現などのスペクタクル性も楽しめます。ワーグナーのオペラは難解ではないかと敬遠される方にこそお勧めしたいプロダクションです。



巨匠ジェームズ・コンロン登場！ シリンスはじめ第一線のワーグナー歌手が集結

指揮を執るのは、米国の著名指揮者ジェームズ・コンロン。ケルン歌劇場音楽総監督、パリ・オペラ座首席指揮者等のポストを歴任し世界の著名歌劇場、管弦楽団で活躍する名指揮者コンロンが、新国立劇場に初登場します。タイトルロールのオランダ人には、最高峰のワーグナー歌手として、そして“オランダ人歌い”として世界中で活躍するエギルス・シリンス、乙女ゼンタにベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手として活躍した後、近年はワーグナー作品を中心に主要劇場で活躍中のソプラノ、ヴェルシェンバッハ、エリックには声と演技を武器に欧州で躍進中のラディスラフ・エルグルが来日。ダーラントに日本の誇るバス妻屋秀和、舵手役に実力派人気テノール鈴木准、マリーに国内屈指のメゾ山下牧子と、オペラファンには見逃せない歌手が勢揃いする、見逃せない機会となりました。世界的に評価される新国立劇場合唱団の勇壮な響きも聴衆の心を捉えること間違いありません。

<「さまよえるオランダ人」あらすじ>

【第1幕】ノルウェー船が入江に停泊していると、赤い帆の不気味な船が現れる。それは、オランダ人船長の乗る幽霊船だ。悪魔に呪われたオランダ人船長は死ぬことを許されず、海をさまよっていた。そして7年に一度だけ上陸を許され、そのとき彼に永遠の貞節を誓う女性が現れれば救われるという。ノルウェー船の船長ダーラントはオランダ人の姿に気づき、幽霊とは知らず声をかける。2人は話すうち、ダーラントの娘ゼンタを妻にもらえるなら全財産をあげよう、とオランダ人が提案する。金に目がくらんだダーラントはその申し出を受け入れる。



【第2幕】壁にかかるオランダ人船長の肖像画になぜか心惹かれるゼンタ。村の女性たちはみな糸を紡いでいるが、ゼンタは絵に見入って幽霊船の伝説を語り、船長を救えるのは自分だけと確信する。ゼンタを愛する狩人エリックは、ゼンタがオランダ人と共に海に旅立つ夢ばかり見ているので、気が気でない。そんなとき、船が帰港。ダーラントは、オランダ人をゼンタに紹介する。ゼンタは、恋い焦がれたオランダ人が目の前にいることに恍惚とし、彼に貞節を誓う。オランダ人はついに救われるときが来たことを確信する。ダーラントも金銀財宝が手に入ると喜ぶ。



【第3幕】ノルウェー船員たちは、一緒に祝杯を上げようとオランダ船員に声をかけるが、反応がない。次第に恐ろしい声が響き渡り、ノルウェー船員たちは逃げ出す。一方エリックは、かつては自分に愛を誓ったのに、出会ったばかりのオランダ人船長と結婚を決めてしまったゼンタを責める。その2人のやりとりを物陰から見ていたオランダ人は、ゼンタを諦め、再び海へ戻ろうとする。しかしゼンタはオランダ人への愛を固く誓い、海へ身を投げる。するとオランダ船は沈没。光に包まれたオランダ人とゼンタは永遠の救いを得るのだった。



<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】ジェームズ・コンロン

James CONLON

シンフォニー、オペラ、合唱曲で広く活躍し、今日最も評価される指揮者のひとり。シンシナティ5月音楽祭音楽監督、ロッテルダム・フィル音楽監督、ケルン市及びケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団、ケルン歌劇場音楽総監督、パリ・オペラ座首席指揮者、RAI交響楽団首席指揮者を歴任し、2006年からロサンゼルス・オペラ音楽監督。1974年のニューヨーク・フィルデビュー以来、欧米のあらゆるオーケストラを指揮。メトロポリタン歌劇場には76年にデビュー、以来270公演以上を指揮している。ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、マリンスキー劇場、英国ロイヤルオペラ、シカゴ・リリック・オペラ、フィレンツェ歌劇場など世界の著名劇場、音楽祭で活躍。ロサンゼルス・オペラでは、50演目以上、約400公演を指揮し、初の「ニーベルングの指環」サイクル上演や、第三帝国下で抑圧された20世紀オペラを上演するプロジェクト「Recovered Voices」、ブリテン生誕を祝う「Britten100/LA」などを手がけ、20/21シーズンには18世紀フランスの黒人作曲家ヨゼル・ボローニュ作曲の『The Anonymous Lover』のソーシャル・ディスタンス上演のライブ中継を行った。今シーズンは『イル・トロヴァトーレ』『タンホイザー』を指揮している。ナチ時代の作曲家の作品の復活上演をはじめ、人権擁護活動でも多くの国際的な賞を受賞している。その社会的活動や文筆、テレビ出演や講演活動によって、米国で最も広く知られる文化人でもある。新国立劇場初登場。



【演出】マティアス・フォン・シュテークマン

Matthias von STEGMANN

ミュンヘン生まれ。テレビや映画の翻訳、台本、演出家、俳優として活動を開始。1991年よりバイロイト音楽祭に参加、以来第一演出助手を務める。2002年英国ロイヤルオペラ『ヴォツェック』、04年「ニーベルングの指環」(共にK.ウオーナー演出)でも演出補として参加するなど、多くの演出家の信頼を得ている。03年メトロポリタン歌劇場『後宮からの逃走』では太守セリムで出演。自ら音楽劇の執筆、演出も手掛けている。新国立劇場では開場記念公演『ローエングリン』でW.ワーグナーの演出助手を務めて以来、『アラベツァ』『魔笛』『サロメ』『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『ニーベルングの指環』に参加。07年『さまよえるオランダ人』で本格的オペラ演出デビューを果たし、12年、15年に再演。08年は『魔弾の射手』を演出。また、04年こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』の台本・演出を担当、大絶賛を博しウィーン国立歌劇場特設劇場、チューリヒ歌劇場でも上演された。近年ではミンデンオペラ劇場『トリスタンとイゾルデ』、バイロイト音楽祭『リエッツィ』、キール歌劇場『蝶々夫人』『松風』『カルメン』などを演出している。



【ダーラント】妻屋秀和(バス)

TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉢蔵、『リゴレット』スバラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベツァ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。20/21シーズンは『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツに出演したほか、『ばらの騎士』警部、『ペレアスとメリザンド』アルケルにも出演予定。二期会会員。



【ゼンタ】マルティーナ・ヴェルシェンバッハ(ソプラノ)

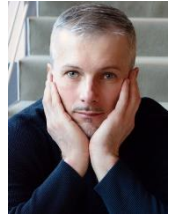
Martina WELSCHENBACH

シュトゥットガルト出身。生地の音楽院及びギルドホール音楽院、英国王立音楽院で学ぶ。チューリヒ歌劇場オペラスタジオを経て08年から17までベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手として『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『仮面舞踏会』オスカル、『魔弾の射手』エンヘン、『ナクソス島のアリアドネ』エコー、『チェネレントラ』クロリンダ、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナ、『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴォークリンデ、『イエヌーファ』カロルカ、『トウーランドット』リュエなどに出演。12/13シーズンは『ラインの黄金』フライア、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファにデビューして以来、特にドイツ・オペラで成功を収める。パリ・オペラ座のヒンデミット『画家マティス』、ウィーン放送交響楽団『ヴァレンシュタイン』(ヴァインベルガー作曲)テクラ、北ドイツ交響楽団『エウゲニ・オネーギン』タチアーナ、ベルリン・フィルハーモニー交響楽団『選ばれし乙女』などに出演。近年では、19年アンジェ=ナント・オペラ『さまよえるオランダ人』ゼンタ、20年ボン歌劇場『ばらの騎士』元帥夫人、『フィデリオ』レオノーレ、21年ベルリン・ドイツ・オペラ『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『リエッツィ』イレーネ、クラーゲンフルト歌劇場『ワルキューレ』ジークリンデに出演。22年にはボローニャ歌劇場『ローエングリン』エルザに出演予定。新国立劇場初登場。



【エリック】ラディスラフ・エルグル(テノール)**Ladislav ELGR**

チェコ出身。2005年にニュルンベルク歌劇場、06-08年にハンブルク歌劇場のオペラスタジオに在籍後、ウィーン・フォルクスオーパー専属歌手となる。ジュネーヴ大劇場、フェニーチェ歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場などに出演した後、パリ・オペラ座に『マクダロス事件』イエネクで、ベルリン・ドイツ・オペラに『イエヌーファ』シュテヴァで衝撃的にデビュー。フランダース・オペラ『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、ライプツィヒ歌劇場『さまよえるオランダ人』エリック、ベルリン・ドイツ・オペラ『マクダロス事件』アルベルト、『エドワード』(世界初演)ガヴェストンなどに出演。声楽、演技両面で評価され、ザンクトガレン歌劇場『カルメン』ドン・ホセ、ザクセン州立歌劇場『ダフネ』ロイクッポス、ベルリン・ドイツ・オペラ『死者の家から』スクラトフ、トゥーロン歌劇場『カーチャ・カバノヴァ』ボリス、ケルン歌劇場『アラベッラ』マッテオ、エッセン・アールト劇場『ルサルカ』王子はいずれも新演出に出演した。最近の主な出演には、パリ・オペラ座、リヨン歌劇場、英国ロイヤルオペラ『死者の家から』スクラトフ、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、フランダース・オペラ『賭博者』アレクセイ、ライプツィヒ歌劇場『さまよえるオランダ人』エリック、ウィーン国立歌劇場『イエヌーファ』シュテヴァがある。新国立劇場初登場。

**【マリー】山下牧子(メゾソプラノ)****YAMASHITA Makiko**

広島大学教育学部卒業、東京藝術大学大学院声楽専攻修了。第1回東京音楽コンクール第1位。これまでに『ジュリアス・シーザー』タイトルロール、『ゴジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『カルメン』タイトルロール、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなどを演じ、スケール大きな歌唱と豊かな音楽性で音楽界を席卷する。新国立劇場では『カヴァレリア・ルスティカーナ』『ルル』『サロメ』『軍人たち』『リゴレット』『蝶々夫人』『ワルキューレ』『ヴォツェック』『カルメン』『沈黙』『ホフマン物語』など数多く出演、最近では、『椿姫』フローラ、『沈黙』少年、『蝶々夫人』スズキ、『夜鳴きうぐいす』死神、『イオランタ』マルタ、『魔笛』侍女Ⅲ、『カルメン』(高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演)タイトルロールなどに出演している。二期会会員。

**【舵手】鈴木 准(テノール)****SUZUKI Jun**

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、『後宮からの逃走』ベルモンテ、一柳慧『愛の白夜』ヨニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリュ・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ好評を得た。14年にはびわ湖ホール『死の都』にパウル役で出演し絶賛される。15年には神奈川民ホール『金閣寺』柏木に出演。新国立劇場では『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓、『フィデリオ』ジャキーノ、『タンホイザー』ヴァルター、演奏会形式『ゴジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ウルリヒ・アイスリンガーに出演したほか、『魔笛』タミーノにも出演予定。二期会会員。

**【オランダ人】エギルス・シリンス(バス・バリトン)****Egils SILINS**

ラトヴィア出身。ラトヴィア国立歌劇場でデビュー後、ウィーン国立歌劇場にデビュー。プレゲンツ音楽祭『デーモン』タイトルロールで称賛され、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、グラインドボーン音楽祭などの著名音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに定期的に登場。「ニーベルングの指環」ヴォータン、さすらい人、『パルジファル』クリングゾル、アムフォルタス、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナル、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアなどレパートリーは70に及ぶ。2019/20シーズンにはウィーン国立歌劇場『ローエン格林』テルラムント、英国ロイヤルオペラ『フィデリオ』ドン・フェルナンド、ベルリン・ドイツ・オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータンに出演。21年はベルリン・ドイツ・オペラ『さまよえるオランダ人』オランダ人、カッセル歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演。今後の予定にビルバオ・オペラ『フィレンツェの悲劇』シモーネがある。新国立劇場では14年『パルジファル』アムフォルタスに出演した。



新国立劇場 2021/2022 シーズンオペラ
 R. ワーグナー **さまよえるオランダ人**
 Richard WAGNER / Der fliegende Holländer
 全 3 幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2022 年 1 月 26 日(水)19:00／29 日(土)14:00／2 月 2 日(水)14:00／6 日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:22,000 円・A:16,500 円・B:11,000 円・C:6,600 円・D:3,300 円・Z:1,650 円

【前売開始】 2021 年 11 月 27 日(土)

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

※招聘キャスト、指揮者につきましては、出入国制限の状況により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

指揮	ジェームズ・コンロン	ダーラント	妻屋秀和
Conductor	James CONLON	Daland	TSUMAYA Hidekazu
演出	マティアス・フォン・シュテークマン	ゼンタ	マルティーナ・ヴェルシェンバッハ
Production	Matthias von STEGMANN	Senta	Martina WELSCHENBACH
美術	堀尾幸男	エリック	ラディスラフ・エルグル
Set Design	HORIO Yukio	Erik	Ladislav ELGR
衣裳	ひびのこづえ	マリー	山下牧子
Costume Design	HIBINO Kodue	Mary	YAMASHITA Makiko
照明	磯野 睦	舵手	鈴木 准
Lighting Design	ISONO Mutsumi	Steuermann	SUZUKI Jun
再演出	澤田康子	オランダ人	エギルス・シリンス
Revival Director	SAWADA Yasuko	Holländer	Egils SILINS
舞台監督	村田健輔		
Stage Manager	MURATA Kensuke		

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/derfliegehollander/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650 円:公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1 人 1 枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染症拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのご願い

https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【2】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】

新国立劇場『さまよえるオランダ人』2015年公演より 撮影:寺司正彦